

巻頭言

高い地位にある人のために

ミッション・宣教の声 主幹 黒田 禎一郎

2022年2月24日、プーチン大統領のロシア軍はウクライナに侵攻し、恐ろしい戦争が始まりました。プーチン氏は侵攻の目的は、「近代ウクライナ」を元に戻すことだと主張しています。つまり、ロシアがかつて支配した時代のウクライナです。



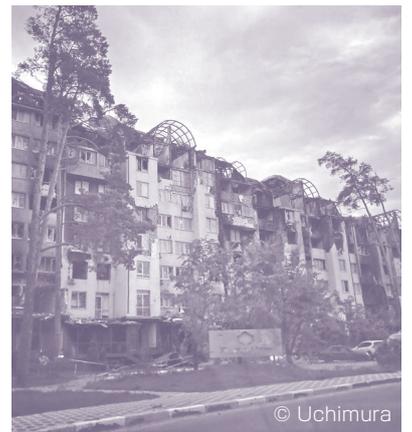
彼はゼレンスキー大統領率いるウクライナは、「歴史的にロシアの土地だったものを分割し、分離する」結果につながったと主張しています。プーチン氏にとってソ連が歴史上で最も輝いた時期は、第2次世界大戦でした。当時ソ連は計り知れないほどの血の代償を払い、欧州をナチスの惨劇から救ったと自負しています。プーチン氏の戦争崇拜には、戦時のソ連指導者スターリンへの称賛と賛美があります。

ところで、ロシア、ウクライナ両国には、反ユダヤ主義とユダヤ人迫害の長い歴史があります。しかしウクライナでは、ユダヤ人は何世紀にもわたり、他の多くの人種・宗教グループとともに暮らしてきました。プーチン氏が嘆くウクライナ共和国が生まれた1920年代、ユダヤ人とウクライナ人は、しばしば協力し、それぞれの伝統を祝福し、文化的復興を遂げてきました。それに終止符を打ったのが、スターリンによる作家・芸術家の大量粛清でした。

プーチン氏のロシア進攻で気になるのは、ロシア軍による「強制捕虜施設」(収容所)の存在です。ドイツ・オスナーブルック新聞(7月中旬)によれば、捕虜とされたウクライナ人は7月中旬現在で約160万人、その内子どもは約26万人です。なぜ、強制捕虜収容所と呼ばれるかといえ、自分の意志ではなく連行されたからです。

そこで何が起きているかと言えば、親ロシアか反ロシアかの選別です。反ロシアと認定された人々には、強制的に思想返還教育が施され、ロシア人化させようと浄化教育が施されています。

英国BBCロシア語版は、強制捕虜施設でロシア側がスパイ行為など不審な行動を取ったと判断すれば、住民に電気ショックを使ったと言われる体験談を報じました。英国メディア「iNews」はクリル諸島(北方領土と千島列島)と



変わり果てたイルピンの町 2022年7月 © Uchimura

サハリン、カムチャッカなど少なくとも66か所にウクライナ人が連行されたと報じました。そこでロシアに批判的なウクライナ人は「浄化」すべきとされています。

このような事態は第二次世界大戦時代に、ユダヤ人に対して行われた「浄化」と一部重なります。ナチスドイツによるホロコーストは、世界が決して忘れてはいけない事実です。これを受けて1948年には、国連総会でジェノサイド条約(集団殺害罪の防止および処罰に関する条約)が採択されました。しかし、戦争は再燃しました。光と闇の戦いは人類史のはじめから、現在に至るまで続いています。どうぞ、お祈りください。

私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。 I テモテ 2:1

ルーマニアにおけるユダヤ人伝道の略史

CMJ-USA テレサ・ニューウェル博士 翻訳 石井田 直二



2021年9月、私は小さな伝道チームの一員としてルーマニアを初めて訪れました。出発の約1か月前、首都ブカレストにいくつかのメシヤニック・コングリゲーションがあることを知りました。そして、30年前に現地で働きを始め、現在はアメリカに住んでいる男性と連絡を取ることができたのです。彼を通して、

ブカレストのベイト・ハスト・メシヤニック・コングリゲーションの現在の指導者の何人かと連絡を取ることができました。そして現地に行った時、数人の指導者たち（見開きページの写真を参照）と会えたのです。CMJ (Church's Ministry Among Jewish People / 世界で最も歴史ある宣教団体の一つで1809年設立) やノルウェー・イスラエル宣教団など、ルーマニアで活動したユダヤ人伝道団体は、それぞれが、様々な情報を持っていることがわかりました。自宅に帰ってから、過去のLCJE プレテンを調べてみると、驚いたことに2010年にポーランドのクラクフで開催されたLCJEヨーロッパ会議に参加したリーダーの1人、フローリン・スシウによる短い記事を見つけました。

フローリンは次のように書いています。「クラクフに来るまでは、こんなに多くの人々がユダヤ人伝道に関心を持っているとは知りませんでした。それはたぶん、私がルーマニアに住んでいたからでしょう。ここでは、ユダヤ人伝道の試みはほとんど行われたことがありません」。ルーマニアは、ナチスの支配時代に続き、ニコライ・チャウシェスクの下で最も恐ろしい共産主義独裁政権を40年間経験していたため、その前に行われていたユダヤ人伝道と、1989年の民主化革命以後に始まったユダヤ人伝道の間には断絶があるのです。何千人ものルーマニア系ユダヤ人がナチスによって殺害されました。他の人々は主にイスラエルと米国に逃げました。「ディアスポラ」という用語は、世界中に散らばっているユダヤ人に使用されているのと同様に、今日のルーマニア人にも適用されています。私がルーマニアにいた時に、ルーマニア系のユダヤ人信者の何人かが、ルーマニア、イスラエル、米国、さらにオーストラリアから週に2回ZOOMで集まって一緒に祈っていることを知りました。私は期待しつつ彼らと関係を作り、ルーマニア系ユダヤ人の間で新たな働きができることを喜んでいます。

1800年代からホロコーストまでの歴史

この期間の最後にあたる1941年2月、CMJスタッフであったロジャー・アリソン牧師がブカレストでの任務を離れたことを、私は知っていました。CMJの米国事務所が開設された直後、私は1982年にイギリスで

のCMJ会議に初めて参加し、ロジャー牧師本人に会いました。そして一緒に祈りました。彼は私に彼のことを少し話し、「エルサレムへの旅」というタイトルの彼の回想録に署名して私に渡してくれました。今回の旅行を終えて帰ったとき、私はロジャー・アリソン牧師の小冊子を読み直し、ブカレストでの彼の時間について彼が語ったことを再確認しました。

別のCMJスタッフで、最後のルーマニア支部長だったジョージ・スティーブンスは、CMJブカレスト支部の短い歴史の詳細を「行きて兄弟たちに告げよ」という書に記録しています。スティーブンスの著書から、ルーマニア支部の働きは、ロジャー・アリソン師が国外追放される100年前の1841年に始まったことを知りました。ギドニーの記録によれば、最初の宣教師が到着したとき、ブカレストには4万人のユダヤ人がいたそうです。1846年にブカレストで長期的な宣教事業が開始され、2年後に最初の伝道学校が設立されました。そして、1856年から32年間、F・G・クラインヘンが、CMJブカレスト支部の責任者を務めました。

スティーブンスによれば、クラインヘンは「学校、訪問、日曜日とユダヤ教の祝日の講義、そして新約聖書の配布を通して絶え間なく働いた」そうです。CMJの最初の100年の歴史をまとめたW.T.ギドニーは、クラインヘンについて「彼は宣教において消えない業績を残し、ブカレストの支部を世界有数のCMJの宣教拠点とした」と評価しています。

クラインヘンの後を引き継いだJ. ミューレンブルック牧師は、全日制学校の事業を始めました。1894年には、300人以上の子供たちがその学校に入学しました。1900年には、もう1人の長年のCMJスタッフだったJ.H. アドニー牧師が到着しました。彼は主に建築者として覚えられています。彼の最初の妻エマはルーマニアで数年後に亡くなりましたが、ストラダ・オルテニの会堂は彼女を記念して「エマ・アデニー記念ホール」と命名されました。「そこで福音を聞いたユダヤ人は数千人に達する」とスティーブンスは記しています。そして1902年にストラダ・ネグストリに建てられた高校で教育を受けたユダヤ人の少女は数百人にのぼりました。1907年までに、合計600人の子供たちが2つの学校に毎日通っていました。ギドニーは「1846年にこの施設が開設されてから通算で、146人のユダヤ人が洗礼を受けた」という記録を残しています。

ネグストリ校のミス・エルシー・ボイド校長と、オルテニ校のフラウ・メイタート校長は、ルーマニアや他のいくつかのヨーロッパ諸国からの多数の教職員を指揮して活動しました。夕方の英語の授業には多くのユダヤ人の成人が集まり、そこで彼らは新約聖書を学んだのです。

英語とルーマニア語の礼拝は、英国国教会と前述の記念ホールの二か所で行われました。スティーブンス

は、これらの年の間に多くのユダヤ人が信仰を持ち始めたと述べています。そのうちの一人、アイザック・ファインスタインはジャシーの CMJ (ルーマニア語でヤシ、ヤシュと発音) の施設内で活動していたノルウェー宣教団と協力して活動しました。ファインスタインは、ジャシーの他のユダヤ人たちと共にナチスに捕えられ、家畜用トラックに詰め込まれて窒息死したと考えられています。アリソンによると「数人の生存者が、後に彼の未亡人に語ったところによれば、彼は息絶える間際まで仲間のユダヤ人にキリストを証言していた」とのことです。

アデニー牧師の後継者は H・L・エリソン牧師でしたが、アデニー牧師は引退から復帰して 1939 年までブカレストで働き続けました。スティーブンスは 1940 年まで支部長を務めましたが、そこに来たのがロジャー・アリソン師でした。彼はワルシャワでの CMJ の任務を外れてやって来たのです。アリソン師は 1941 年 2 月、ドイツの占領に伴い英国人が国外退去を命じられた際、ルーマニアから陸路でイスラエルに行きました。

アリソン師の回顧録によれば、彼が最初にルーマニアに来た時は、ポーランドからチェルノフツィ付近で国境を越えて、ブカレストに着きました。それは日曜朝で、ジョージ・スティーブンスが朝の礼拝を行っていた時でした。ロジャー・アリソン師のブカレストでの滞在は短く、わずか 17 か月でした。その時期に、ミス・ボイド校長はアリソン師にドイツ軍が学校を掌握したことを報告しました。そしてアリソン師自身も、ルーマニアの悪質な反ユダヤ主義グループである鉄衛団のメンバー数人が、記念ホールで開催中の日曜礼拝に侵入した時のことを記録に残しています。その時の説教者はリチャード・ワームブランド師 (アリソンが去った時に任務を引き継いだ人物) でした。「ワームブランド師は、準備されたメッセージをやめ、訪問者に直接向けられた神からの言葉を話しました。そして、訪問者の目的が自分を捕えることだと本能的に悟り、(最後の賛美歌が歌われている間に) まるでいつもの習慣であるかのように会堂の後ろまでまっすぐ歩き、別の出口から建物を出て行ったのです」。

アリソン師は、通りをパトロールしてユダヤ人を捕えていた鉄衛団の悪党たちに数回捕えられました。ある時は、上着のポケットに会員の名前と住所の完全なリストが入っていることに気づきました。彼は神が彼を捕えた人々に目隠しをすることを祈りました。そしてリストは発見を免れたのです。彼は解放された後で「それを細かくちぎったが、飲み込むのはやめて、下水に流した」と記しています。

また、彼は他の出来事について、こんな記録も残しています。「私は運の悪い (ユダヤ人の) 男たちの列に押し込まれました。列の両側には拳で私たちの頭や肩を叩き続ける男たちが並んでおり、私たちは (鉄衛団の本部) へ向かう狭い道を歩かされました。この経験から、ユダヤ人がナチスのような体制の下で生活していた恐怖と、彼らがユダヤ人であるというだけの理由で経験した、非常に現実的な肉体的および精神的苦痛を、直接体験することができました」。

ノルウェー宣教団

ラゲンヴァルド・ジェッティング牧師 (1859-1927) は、ユダヤ人伝道者となった、最初のノルウェー人宣教師だと考えられています。事前調査の後、ジェッティング師とノルウェーの理事会は、ルーマニアのガラティ (発音はガラツ) で活動を始めることにしました。最初に起こった問題は、どのCongregation (教会) を拠点に活動するかという問題でした。その後の流れで、ジェッティング師はガラティの港を訪れるノルウェー人船員のための牧師として公式に派遣されることになりました。そして、彼は町にいた多くのユダヤ人と接触し始めたのです。問題は、そのユダヤ人たちが、ジェッティング師が想定して宣教の準備をしていたユダヤ人とは全く異なる種類のユダヤ人だったことでした。ジェッティング師は、ガラティのユダヤ人についてこう書いています。「彼らは現代的な服装で、ユダヤ魂もなく、ユダヤ人の組織もありませんでした。彼らは様々な派閥に分かれ、それぞれ西欧のイデオロギーに影響されていました。そして最大の問題は、彼らがまったく宗教的ではないということでした」。

1 年後 (1893 年) に、ジェッティング師はガラティを去っています。それは宣教が成功しなかったからではなく、病気と死のためでした。彼と一緒にいた妻の親戚の一人、また彼らの若い娘、そして家政婦もすべて赤痢で亡くなりました。そして医者は、ブダペストに行くようジェッティング師に勧めたのです。

ジェッティング師の後継者となったジスル・ジョンソンは、1901 年にノルウェー宣教団の職員となりました。その 2 年後、彼はルーマニアに派遣されます。第一次世界大戦中に、彼は非常に困難な状況と労働条件の下で現地にとどまることになり、その後完全に燃え尽きました。彼は約半年の病気休暇が必要になり、その休暇をフランスで過ごしました。ルーマニアに戻った際、彼はブダペストに立ち寄ることを求められました。20 年間、ブダペストにノルウェー人宣教師はいなかったのですが、宣教の再開を検討するためでした。ユダヤ人クリスチャンの弁護士ガイラ・フライシャーが手紙でそれを求めたのです。フライシャーはラゲンヴァルド・ジェッティング師の役割を引き継ぐ人を求めていたのです。そして、ジスル・ジョンソンは、生涯をユダヤ人の宣教に捧げた最初のノルウェー人宣教師になりました。

その後、「ドムヌル牧師」と呼ばれたマグネ・ソルハイ牧師が宣教活動を行いました。その時期に、NCMI (The Norwegian Church Ministry to Israel) には、ガラティとヤシなどで奉仕する、多くの献身的な女性宣教師がいました。彼らは全員、第二次世界大戦中にルーマニアに滞在したので、ヤシのポグロムの中でナチスや鉄衛団から数人のユダヤ人が救出されました。そのうちの 1 人は、後にハンブルクに移り、NCMI のルーマニア語ラジオ放送の編集者となったヤンコ・モスコビッチ牧師です。その放送はトランス・ワール・ドラジオ (別名モンテカルロ放送) との協力により制作および放送されました。

以上が、1800 年代から第二次世界大戦の終わりまでのルーマニアにおけるユダヤ人伝道の略史です。

(協力: ロルフ・グナール・ハイトマン氏)

カスパリセンターが20年ぶりに出版

シオンとの架け橋 石井田 直二

エルサレムにあるカスパリセンターは、ノルウェーのルーテル教会系の宣教団体 NCMI によって設立された研究機関です。最近では宣教ミニストリーとしての活動を増やしていますが、研究・教育機関としての活動はすばらしく、高い評価を受けています。

イスラエルのメシアニック運動の全容を把握するのは簡単ではありません。数多くの指導者に話を聞いても、みんながその人の活動を中心に話すので、運動の全容がわからないからです。ですから、よく質問が出る「メシアニック・ジューはイスラエルに何人いますか」という問いに答えるのは簡単ではありません。実数がわからないと「最近増えている」と言っても、単なる感覚の問題になってしまいます。

そこで、1999年に、ボディル・スキヨット博士らによって、イスラエルにおける運動の全容を調べた初めての総合的な調査報告『事実と神話／Facts and Myths』が出版されました。その後、類似の調査は行われなかったのですが、コロナ禍の中、2021年に第二回の調査報告書『イエスを信じるイスラエル人たち／Jesus-Believing Israelis』が出版されました。調査の中心になったのは、カスパリセンター国際ディレクターのデビッド・セネルと、イスラエルディレクターのアレック・ゴールドバーグです。

多くの指導者の協力を得たが、コロナ禍に

デビッドとアレックは、280人のリーダーに連絡を取り、大量の電話や電子メールで273人(97.5%)から回答を得ました。リーダーの大部分は喜んで回答してくれたのです。アレックは、「全ての情報は、現場にいる人々から集めたものです。答えてくれた人々は、この調査の目的が、現実の情報を集めることだと理解してくれたのです。彼らが私たちに信頼して答えてくれたことを喜んでいきます」と語っています。

前回の調査報告は、反宣教団体によって迫害のために利用された例もあったと聞きますが、今回はそれを恐れる人は、ほとんどいませんでした。むしろ、ダビデ王が民の人数を数えて神の怒りを買った(Ⅱサムエル 24 章)

という故事から、数を数えることに反対した人々がいたそうです。

2020年3月に聞き取り調査がほぼ全て完了したところでコロナ禍に。しかし、その結果、他の活動が全て停止したことで、集めたデータの処理に集中できたそうです。

メシアニック・ジューは何人いるのか

さて、「メシアニック・ジューはイスラエルに何人いますか」という問いから始めましょう。実はこれに答えるのは簡単ではありません。

確実に数えられるのは、既知のメシアニック・コングリゲーション(またはハウスグループ)に属するメンバーの総数です。これに関しては、前述のように、97%を超えるリーダーが回答を寄せており、おおむね把握できています。

しかし、イスラエルのメシアニック運動は子供が多く、子供は人数に入れるべきでないとの考えもあり、さらに「メシアニック・ジュー」の数ですから異邦人は除かなければなりません。これには後述のように多くの困難な問題があります。

というわけで、本調査では①メンバー総数、②うち18歳以上の成人、③成人のユダヤ人と3段階で集計を行っています。これで見ると、この20年間で約3倍以上に成長していることがわかります。

ユダヤ人の定義は難しい

ユダヤ人の定義については説明が必要です。ユダヤ法では、ユダヤ人の母から生まれた者がユダヤ人ですが、1950年の帰還法では祖父母に1人でもユダヤ人がいればユダヤ人として帰還可能でした。本調査の「ユダヤ人」はこの定義を採用しています。1970年以降はメシアニック・ジューを除外するように帰還法が改正されていますが、実際には様々な抜け道があるようです。また、ユダヤ人の配偶者や子孫は「ユダヤ人の家族」枠で帰還が可能ですから、異邦人であってもイスラエル国籍を取得することができます。しかし、コングリゲーションの指導者がそこまで把握していない場合も多く、数字はユダヤ

所属するメシアニック団体区分	メンバー総数	18歳以上	ユダヤ人
1999年調査(主にa.+b.)	4,957人	3,560人(72%)	2,178人(61%)
2020年調査(区分別)			
a.メシアニック・コングリゲーション	15,323人	11,179人(73%)	8,125人(73%)
b.インターナショナル・チャーチ	1,834人	1,484人(81%)	283人(19%)
c.カトリックなど	3,120人	2,486人(80%)	490人(20%)
d.無所属(未調査ハウスグループ所属含む)推定人数	4,789人	3,486人(73%)	2,538人(73%)
総合計	25,066人	18,635人(74%)	11,436人(61%)

人と異邦人の区別に関して多少の誤差を含んでいます。

というわけで、祖父母の1人がユダヤ人であれば、本調査では「ユダヤ人」として数えられています。これは、1999年出版の調査とは微妙に変わっており、前回の調査では「帰還法上、ユダヤ人として帰還し、自分はユダヤ人だと考えている」(P18)という定義でした。しかし、前回は今回も、あくまでコングリゲーションの指導者への聞き取り調査であり、経験上、ほぼ同じような基準だと見てよいでしょう。

□メシアニック団体の区分

今回の調査は、モルモン教や旧統一教会など「非キリスト教」は対象から省き、以下の4つに所属団体を区分しています。

- a. メシアニック・コングリゲーションは、標準的なメシアニックの集会(メンバー数20人超)で、大半がこの枠に含まれます。また、イスラエルは日本の「教会籍」のように、メンバーかどうかの明確な規定を作っていない所が多いため、複数のコングリゲーションで計上される人もいますが、それはかなり少数だと見られています。
- b. インターナショナル・チャーチは、クライストチャーチやバプテスト教会などです。それらは1999年の調査ではメシアニック・コングリゲーションに含めていたのですが、今回は別に集計されています。たとえば、エルサレムのキング・オブ・キングス、トム・ヘス師のJHOPFAN、リック・ライディングス師のスコット・ハレルもこの枠です。
- c. はカトリックや東方教会などで、ユダヤ人の数はかなり少ないものの、そういう教会に所属する人もいます。
- d. 無所属は、メンバー数20人以下の既知のハウスグループ所属者や、あるいは把握できていないグループの所属者、そしてどのコングリゲーションにも所属しないメシアニック・ジューの推定数(算定根拠は示されていない)です。

以上すべてを加算した、イスラエルにおける最終的な成人メシアニック・ジューの推定数は11,436人とされています。(P101)

□イエシュアを信じシナゴグに集う人々の存在も

ユダヤ人ピリーパーで最も目に触れにくいのは、正統派として生活し、シナゴグで礼拝しているピリーパーです。調査を行った2人は、そのうちの数人とコンタクトを取ることに成功しました。彼らはほとんど一般のメシアニック・ジューと関係がないため、その人数を調査するのは不可能ですが、確かにそのような人々は存在します。

彼らの数は、約100人、あるいはそれ以上の可能性もあります。「彼らは、シナゴグこそ神がユダヤ人に定めた礼拝の場所だと考えています。生活や信仰に関してラビたちにも一定の権威を認めますが、それは新約聖書の権威を上回るものではありません」とアレックは説明します。

□意外に少ない「サブラ」

イスラエルにおける運動は移民者によって支えられて

来ました。そこで、イスラエルに福音が根付いているかどうかの指標として、よく引き合いに出されるのがサブラ(イスラエル生まれのユダヤ人)の数です。

成人メンバーのうち、サブラの率は意外に少なく、約20%(P102)とのことで、実数は約2200人です。サブラはヘブライ語コングリゲーションに多いのですが、それでも28%しかいません。移民者が多いロシア語のコングリゲーションでは、サブラはわずか3%です。

1999年の調査では、当時の2178人の成人ユダヤ人ピリーパーのうち、サブラは推定650人(P72)、29%とされていたので、サブラの比率は低下しました。

しかし、サブラの実数で見ると650人から2200人へと3倍以上に増えています。比率の低下は、サブラへの宣教の失敗ではなく、移民者への宣教の成功の結果だと言えるでしょう。メシアニック・ジューの総数の30%近くが子供だという状況から見て、しっかり次世代教育を行えば、運動の未来は明るいと思われれます。

□メシアニックに対する迫害は減少

1999年の調査は「イスラエルのユダヤ人ピリーパーにとって、迫害に耐えることは信仰生活の一部」(P25)と述べていましたが、今回の調査では、迫害を全く受けていないコングリゲーションが60%を占めることが明らかになりました(P76)。迫害を受けている所でも、悪口や嫌がらせなど軽度が21%、暴行や訴訟など重度が19%とのことで、以前に比べて大幅に状況が改善されている事がわかります。言語別の内訳では、ロシア系のコングリゲーションは迫害が少なく、ヘブライ語と、アムハリ語(エチオピア系)のコングリゲーションは迫害が多くなっています。おそらく、ロシア移民の社会では、もともとキリスト教に対する反発が少ないからだと考えられます。

前回の調査では、出版された調査資料が迫害者によって利用された例もあったようで、当時はメシアニック・コングリゲーションの所在地などの情報は秘密扱いでした。しかし、近年ではコングリゲーションの状況を積極発信するKehila Newsというインターネット・ミニストリーも登場しています。そのウェブサイトではコングリゲーションの所在地や連絡先、礼拝情報も公開されています。多くのメシアニック・コングリゲーションが自らウェブサイトを設置しており、状況は大きく変わっていることを、私たちも実感しています。

□メシアニック的終末論は?

日本では関心の高い、ディスペンセーション的終末論とメシアニック的終末論の違いについては、今回の調査も1999年の調査も調査項目とはしていません。ただ、現代イスラエル国家の建国とメシアニック運動の成長が、現実的また霊的な回復の過程であり預言の成就だという点では、ほとんど全てのメシアニック運動指導者の意見は一致している(P53)とのことです。

調査を行ったカスパリセンターのデビッド氏によると「指導者たちは、メシアニック運動を、使徒行伝に記された、イエスを信じるユダヤ人共同体を回復する神の計画の一部だと考えています」と語っています。「直接質問をしたわけではありませんが、彼らとの会話の中で、こ

のような考えがしばしば聞かれました。それが、多くのメシアニック・Congregationにとってアイデンティティの中心にあると考えられます」。

私たちの立場から付言しておきますと、伝統的なディスペンセーション神学によれば、ユダヤ人の民族的救いはクリスチャンが携挙され、艱難時代が終わった後で起こると考えます。しかし、救われるユダヤ人が毎日、数を増しているという状況から、それとは異なる終末論を提唱する人もいます。彼らの終末論は様々ですが、それを調査対象としなかったカスパリセンターの姿勢には賛同したいと思います。

□キリスト論や救済論は正統の範疇

メシアニック運動が、律法の行為による救いを目指している、等との批判を耳にすることがありますが、前回の調査も今回の調査も「イスラエルのメシアニック運動は、ユダヤの要素を礼拝などに取り入れているものの、基本的な神学は福音派と同じ」と結論付けています。つまり、キリスト論や救済論は、ほとんど「正統」とされる範疇に収まっています (P51)。

メシアニック・ジューは「キリストを単なる人間と見ているのではないか」などと疑いの目で見られる場合もありますが、この調査を見る限り「キリストは単なる人間」という見解を持つCongregationはゼロで、逆に「キリストは神であって人でない」という主張が1つだけありました。しかし、こう極端な見解は少数の例外 (P55) で、基本的なキリスト観は世界各国の福音派の教会が信じる「神であると同時に人でもある」というものです。

聖霊の賜物については、自分たちが「カリスマ的」と考えるCongregationが、前は62%だったのに、今回は76%まで増加しています。日本の用語で言うと「聖霊派」の割合が増しているようです。ただし、ヘブライ語のCongregationについては、その比率が極端に低く、わずか45%でした。(P56)

□ユダヤ性に対しては肯定的に

ユダヤの祭など、ユダヤ的な風習を守るのがメシアニック運動の特徴ですが、この点については前回の調査とは変化が見られました。たとえば、ユダヤ教の会堂には必ず備え付けられているトーラーの巻物を保有するのは、前回の調査時には3つのCongregationだけだったのに、今回の調査は「かなり広がっている」(P52) としています。しかし、それと礼拝がユダヤ的かどうかは、あまり関係ないようです。ユダヤ的な礼拝が少ないのは、儀式的な礼拝より自由な礼拝が好まれるという文化的な背景のほかに、古式に則ったユダヤ的なトーラー礼拝が、かなりの研鑽を必要とするという要因があるようです。

また、伝統的なユダヤ教シナゴグでは、世界ほぼ共通の順序でモーセ五書の決まった朗読箇所(パラシャ)を学んで行きますが、これを取り入れているところは全体で20%、ヘブライ語を話すCongregationでも32%でした(P61)。その背景には、彼らが自由な礼拝

形式を好む、という事情もあるようです。

□メシアニック・ジューの生活は

神学的には、ユダヤ人ビリーバーがモーセの律法を守る意義を強調するCongregationは少数派(P51)です。しかし、今回の調査の大きな特徴である、大規模なオンライン調査(P187-242)からは、違った側面が見えてきます。

信仰を持った前後でのユダヤ的な風習の実践を調査(P231)したところ、信仰を持つことでユダヤ的な生活をする傾向が明らかに見られるのです。多くの人が守っているのが、過越の食事、大贖罪日の断食、ハヌカの祭、男児の割礼、食膳の感謝の祈りなどで、それよりもかなり頻度が落ちるのがユダヤの食事規定、安息日に移動しないことなど。キツパ、テフィリン、ミクヴェ、ティシャ・ベアヴの断食などは、熱心な正統派ユダヤ教徒の間では一般的ですが、メシアニック・ジューの中ではありません。

興味深いのは、クリスマスを祝う人が多かったことで、メシアニック・ジューはクリスマスを祝わない、というのは過去の話になりつつあるようです。しかし、「クリスチャン」と呼ばれることには抵抗感があり「メシアニック」という呼称が好まれるようです(P221)。

□参考になる各団体のプロフィール

1999年の調査報告は統計的な分析はページ数の4分の1ほどで、大半の紙数が各団体の聞き取り調査レポートに費やされていました。掲載団体数も今回の調査よりかなり少なかったため、1団体について数ページを費やして非常に詳しく紹介されていました。私たちシオンとの架け橋が活動を開始した頃は、この調査報告にとっても助けられました。今回の報告では、統計的な分析が紙数の半分以上を占めているものの、各団体のプロフィールにも、かなりの紙数が費やされています。

イスラエルのメシアニック・ジュー団体との関係構築を目指す場合、各団体の客観的な調査資料があると非常に参考になります。特に教会などとして公式関係を構築される場合は、本書は必須の資料だと言えます。

また、P74には、イスラエルのメシアニック運動の全国組織についても紹介があります。全国牧師会に相当するケネス・アルツィは、様々な神学的問題に関する議論を行う場となっていました。しかし、この会議はヘブライ語Congregationの指導者たちが多く参加する一方で、それ以外の言語のCongregationの指導者がほとんど参加しておらず、イスラエルの運動全体を代表するネットワークとしての意味を失いつつあります。他に、SAYF (Sitting at Yeshua's Feet) という年に2回のリトリートも開催されています。

その他、シャブオット聖会や奨学金など様々な事業を行うネットワーク、MJAI (Messianic Jewish Alliance of Israel) も紹介されています。

シオンとの架け橋の在庫を1冊 6500円(送料込み)で販売します。

ご注文は info@zion-jpn.or.jp TEL:075-341-7501 FAX:075-341-7502 まで。

私はチャールズ・クリンゲンスミスと申します。和歌山市にある教会の牧師で、LCJE 日本のコーディネーターを務めさせていただいています。

私はアメリカ合衆国出身ですが、ユダヤ人ではありません。皆さんのオンライン祈禱会のご参加を本当に感謝しています。今後もよろしくお願いたします。私自身にとって、皆さんと共に毎月、祈ることはただただ感謝です。日本のキリスト教会



は小さいですが、主イエス様は大いに用いて下さいます。私も日本において、教会の交わりと働きに預らせていただくことは本当に光栄です。人数は少なくても、効果は大きいからです。現段階では、私たちの祈りや努力による果実を、まだ見せていただけていないところですが、特にユダヤ人や国家イスラエルに関して、神様はきっと私たちの祈りをよく用いておられるに違いありません。ぜひ、今後も引き続き、共に祈ってまいりましょう。

今回は私がどのようにユダヤ人伝道に召されたかを、証させていただきます。私は牧師ですが、宣教師ではありません。ご承知のように、宣教師とは、福音宣教のために、外国に遣わされている者で、派遣国のキリスト者たちによって支えられています。私はそうではありません。誰も私を日本に遣わしていませんし、22歳に来日した時から自立です。しかも私は宣教のために日本に来たわけではありませんでした。ただこの国に好奇心を持っていただけでした。1983年に来日し、2年の予定でしたが、いつの間にか40年間になりました。

私が日本に到着した少し後、イースターの日曜日に教会に行こうと思って、探しに出かけましたが、日本語の読み書きなどができなくて、せっかくの復活祭の朝だったのに、諦めてしまいました。代わりに商店街をぶらり散歩した記憶があります。それ以降の8年間は、教会なし、聖書なし、祈りなしの日々になってしまいました。

以前は、家族と共に教会生活はバリバリ、大学のころもそうでした。しかし日本での何かの影響でキリスト教への疑問などが出てきたわけはありません。ただ教会の事より、他の事の方に興味が出てきたということです。正直のところ、教会なしに解放感をよく感じたわけです。とにかく英語をいろんな所や形で教えたりした生活で、かなりお金も稼いで、日曜日は稼ぐ日になった状態でした。自分では自由のつもりでいましたが、次第にこれは自由ではないと判り、人並みにいろんな事があって、やはり教会に立ち返るべきだとそのうちにわかりました。30歳でした。

1990年一番最後の日曜日、賃貸マンションに一番近い教会はルーテル教会でした。教会の言葉は日本語、人々は日本人、そして、週ごとに通うことによって、ついにイエス様に再び出会いました。

さて、イエス様は、畑に宝が隠されていたという話をされました。私にとってその畑とは、日本、そして全く予想もしなかった、夢にも思わなかった宝物とは、日本語によって福音を再確認したことでした。

日本人と共にという形で、イエス様に会い、日本語で悔改めと罪の赦しを聞かせていただき、神の御心、つまり神の律法を日本語で聴き、日本語で悟ることです。聖書、賛美歌、日曜礼拝や教会生活などは、すべて日本語で、しかも、日本人と共にという形で、そういった経験は片手で数える、私の人生の最大の恵みでした。

それから数年後、阪神淡路大震災がありました。その時私は、大阪の一つの聖公会関係の女子短大の教師でした。毎週土曜日、兵庫県芦屋市にある、日本イエスの教会へ、数人の女子短大生を連れて行って、その教会の牧師の指導で、ボランティア活動をいたしました。震災で、牧師のご長男さんを含めて、教会の5人が召された状況、そして周囲は、壊滅状態。深い痛みを常に覚えられたその牧師を毎週よく見て、そのうちに私も牧師になりたいなあ、と決心いたしました。そういうことで、次の年の春、神戸にある、ルーテル教会関係の神学校に入学いたしました。

しかし私が持っていた日本滞在資格、私のビザの条件は、フルタイムで大学で教えるためのもので、勉強するためではなかったです。ですから、続けて働きながら、大阪府堺市にあった短大のご協力をいただきまして、英語を教えながら、自己負担で、大阪から通いながら、フルタイム勉強でしたら、3年間コースが、何とか、5年間で済みました。そういう生活が大好きでした。

しかも、卒業の時に、何か、ご褒美として、なんと、イスラエル旅行が与えられました。2001年。実は、神学校の教授の一人が、カスパリ・センタ主催の会議に招かれまして、私を連れて行ってくださいました。私がその会議に興味を持つようになるではないかと思っておりました。

Lutherans In Jewish Evangelism という会議で、日本語にすれば、「ユダヤ人宣教に携わるルーテル信者たち」となるでしょう。さて、正直のところ、その時まで、私は、そんなにユダヤ人宣教のことを考えたことはありませんでした。しかし集会の発表者の一人、デンマーク人のカイ・ハンセン先生が、いろいろな考えさせる事話をされて、これがとても印象的でした。「…神様がもし、ユダヤ人たちとの約束を守ってくださらなければ、私たち異邦人が御言葉の約束を信じて、守って下さる保証は無い…」そういう内容でした。「神様の約束はすべて、まずユダヤ人たちのためのものだから…」これも印象的で、「神様のイスラエルに対する御旨を、私たちも抱くようにと、神様はいつも私たちに願っておられる」などと、素朴な教えでしたが、それまで考えた事がなかった私には、福音宣教と救いの理解の革命を起こしたメッセージでした。

そこで、私がユダヤ人伝道に召されたわけとは、会議の食事がコーヒータイムの時に、同じルーテルのもう一人のデンマークの方、ボディル・スクット先生が、私に声をかけてくださり、「LCJE という団体があり、実は日本にも支部があるから関わったら、いかがですか」と誘われました。その時に、素晴らしい、と私は思いましたが、日本に戻って、とにかく、按手の準備で、忙しかったです。私の教団では論文、試験など、少なくとも2年程かかります。

でもある時、LCJE 日本支部に連絡ができて、2002年9月の集会に家内とともに出席ができました。JFJのスーザン・パールマン先生が海外のゲストスピーカーでした。それ以降ずっと関わっています。

その様な形で始まり、現在も関わるわけとは何か、少し申し上げます。私は牧師です、群れは日本人、礼拝、賛美歌、集会、牧会の言葉は、日本語。さらに諸事情で、私はついに5つの教会の群れの主任牧師になりました。いわゆる、兼牧。和歌山県にも、大阪府にも。そして、自分の教団のいくつかの役職も、同時に、果たさなければなりません。

そして特に、この和歌山県ですが、日本の急激な人口減少がますます進んでいて、牧会や教会の在り方が問われています。私たちの周りにユダヤ人はいません。30年前に賑わったところは、ガラガラで誰もいません。そういう状況では、牧師の仕事は、ますます難しくなっています。

では、どうして、なお、ユダヤ人宣教ですか。日本の事、兼牧などで、十分に忙しいではないでしょうか。私自身の答えとして、特に、何か神学的な答えではありません。ただ、これだけです。私たちが持っている、一番素晴らしいものは、実に全部ユダヤ人たちから来たからです。要するに、聖書、本当の祈り、バプテスマ、聖餐式、教会すら、もともとユダヤ人たちのものでした。イエス様こそ、ユダヤ人の乙女マリアから、ダビデの町にお生まれになりました。ですから、ユダヤ人と共に、という形で、これらのものをすべてを楽しまたいわけです。

まあ、神学的理由といえ、ローマ1章16節の「福音はユダヤ人をはじめ…」という御言葉です。テルア・ピブにも、和歌山にも、イスラエルの神の変わらないお望みであります。

しかも、これも覚えましょう、福音宣教の欠かせないところは、祈り、とりなしです。LCJE 日本支部は、そういう務めを果たすようにと招かれています。ですから、皆さんお一人、お一人は、本当に大切です。改めて、感謝を申し上げます。主イエス様は、報いて下さると私として、祈っています。有難うございました。

(2022年5月24日 LCJE オンライン集会にての証を編集しました。)

LCJE日本支部東京祈り会は、本年1月から7月まで、一度の休会もなく開催されました。毎回、イスラエルをテーマとしたメッセージが語られます。また、賛美とイスラエルのための篤い祈りが献げられ、主のご臨在が感じられます。参加者は、6名から8名ですが、昨年度のそれが2名から3名であったことから、大きく増加していると言えます。

コロナ感染が収束しない中であっても、イスラエルに重荷を持ち、伝道の実践を目指す方々が来ておられます。

今後も、祈り会は、毎月、第二土曜日、午後1時半から、お茶の水クリスチャンセンターにて継続してまいります。皆さまのご参加をお待ちしております。

LCJE日本支部事務局レター



LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断していただきますよう、お願いいたします。

2022年度祈禱会予定

場 所	9月	10月	11月	12月	会 場
大阪(6:30より)	8日	13日	10日	8日	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	10日	8日	12日	10日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈り会にご参加される方へ】第二木曜日午後6時半開始です。

【東京祈り会にご参加される方へ】ご注意ください▶通常祈り会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧ください。

LCJE オンライン例会

大阪・東京の祈禱会に加えて、オンラインでの祈禱会を月1回(第四火曜日夕刻)開催しています。パソコン、タブレット、スマホのいずれでも参加いただけます。参加希望の方は、前日までに naoji@zion-jpn.or.jp (石井田) までメールでお申込み下さい。

イスラエルの救いと日本の救い

～預言と私たちの役割～
ユダヤ人伝道の最前線で活躍する2人の講師が、日本人向けに語るセミナーです。

予約不要

参加無料



ミカエル・ツイン
CPMイスラエル支部 責任者

東京 2022年11月3日(木・祝)
午後2～4時半
会場：滝野川会館 小ホール



デイビッド・トゥルーベック
CPM日本支部代表役員
ティフェレット・イェシユア教師

大阪 2022年11月7日(月)
午後2～4時半、6～8時
会場：北浜スクエア 8FA室

共催：LCJE日本支部、シオンとの架け橋、CPM日本支部 セミナー事務局 電話：078-341-7501 メール：info@lcje2022.asia

LCJE日本支部 2022年7月度会計

収入・献金		支出・現金	
科 目	金 額	科 目	金 額
献 金	47,500	事 務 費	3,300
大阪祈り会席上献金	5,000	NEWSレター製作費	0
		郵 送 費	0
		郵便振替手数料	2,200
		通 信 費	3,000
		賃 借 ・ 管 理 費	22,000
		高 熱 費 ・ 共 益 費	9,880
		交 通 旅 費	5,000
		祈 り 会 経 費	7,000
合 計	52,500	合 計	52,380
		差 引 残 高	120
前月よりの繰越	691,291	次 月 繰 越 金	691,411

事務局よりのお知らせ

LCJE日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。

文字数は2000文字前後、投稿記事は郵送か、lcjehome@gmail.com 又は FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

感謝とお願い

コ・ワーカーの皆様、LCJE日本支部を覚え篤くお祈りくださり感謝いたします。LCJE日本支部は皆様の尊い献金で本当に支えられています。委員一同心より感謝しています。今後も上からの知恵を慎重に仰ぎつつLCJE日本支部のできることを主にあってさせていただきたいと願っています。

今月号も興味深い素晴らしい内容の記事が翻訳され読むことが出来ます。激動の時代ではありますが、今年も多くのユダヤ人が主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の祝福がありますように。

シャローム
LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝